

平成 27 年度 全国学力・学習状況調査 箱根町立小・中学校の調査結果について

平成 27 年 4 月 21 日に実施された全国学力・学習状況調査の箱根町の結果をまとめました。

1 調査の目的（文部科学省より）

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の概要

箱根町では、4 校、1 2 9 人（町立小学校 7 2 人、町立中学校 5 7 人）の児童・生徒が参加した。
内 訳：町立小学校 3 校全 6 年生、町立中学校 1 校全 3 年生

3 調査内容

（1）教科に関する調査

◆国語 A，算数・数学 A，理科…〔主として「知識」〕

*身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容

*実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能

◆国語 B，算数・数学 B，理科…〔主として「活用」〕

*知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力

*様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。平成 24 年度に抽出による調査を実施し、今回 2 回目となる。今回は悉皆調査として実施した。

（2）児童生徒に対する質問紙調査

*調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する
こと

4 結果の概要

（1）教科に関する調査結果の分析内容について

◇小学校

【国語】

A の調査では、「漢字を読む」問題は全国平均正答率と同程度であり、1 0 0 %できた学校もあるが、「漢字を書く」問題では下回っている。箱根ミニマムへの日常的取組の継続と日頃から習得した漢字を使って文章を書く指導が必要である。また、文を構成する主語と述語との照応関係を捉えることや昨年同様に物語に登場する人物についての描写や心情、人物相互の関係を捉えることに課題が見られる。

B の調査では、全体的には全国平均正答率と同程度であるが、学校間で差が見られた。特に文章と図を関係付けて、自分の考えをまとめ、決められた字数で文章を書く問題に課題が見られ、無解答率も高い。良好な結果を示した小学校の取組を 3 校で共有し、改善することを期待する。

【算数】

Aの調査では、「基本的な計算問題」は全国平均正答率と同程度である。特に、「繰り上がりのある2位数の加法を計算する」問題は正答率100%の学校もあり、箱根ミニマムも含め、日常的な取組の成果と考えられる。「量と測定」領域や「図形」領域の問題では、学校毎に、正答率の高い問題、低い問題があり、各校それぞれに課題が見られる。分度器を使つての測定、用語を正しく理解しての作図、見取図と展開図の関連など、高い正答率の学校の取組を共有していく必要がある。

Bの問題では、「平行四辺形の辺の性質」を問う問題は正答率100%の学校もあり、相当数の児童が正しく理解している。「割合や単位量当たりの大きさ」を活用する問題は全国平均正答率を下回っているが、その中の「比較量と割合から基準量を求める」問題は全国平均正答率が低い中、正答率を大きく上回っている学校もある。「長方形の面積を2等分する考えを基に、各場面に活用し、発展的に考察し説明する」問題は示された考えを基に、根拠となる事柄を十分に説明する力が不足しているため正答を導き出せない。今後、話し合い活動が必要と考えられる。

【理科】

「植物の適した栽培場所について記述する」問題では、全国平均正答率を上回っており、各校で植物を育てることに取り組んでいる成果と思われる。「水の温まり方を考察する」問題は水と金属の温まり方を同じように捉えたり、「析出する砂糖の量について、グラフを基に考察する」問題では、冷やすことで析出する量と、その温度で溶ける量が区別できていなかったりする解答が多かった。また、「星座や雲の動きについて、観察記録を基に考察して分析する」問題は雲の動きを正しく捉えることができない回答が多かった。これらのことから、本町の児童には実験・観察を丁寧に行い、その結果をもとに考察する力に課題があり、その力を付けていく取組が必要である。

◇中学校

【国語】

調査A・Bともに全体的に全国平均正答率と同程度である。Aの調査では「漢字を読む」問題は全国平均正答率と同程度であるが、「漢字を書く」問題では下回っている。箱根ミニマムへの日常的取組や校内漢字検定の継続と日頃から習得した漢字を使って文章を書く指導、語彙を広げる指導が必要である。「代表的な古典の作品」の問題は全国平均正答率を上回っている。

『活用』に関するBの調査では、昨年と比べると良好であり、改善されている。資料を活用して話す問題で選択問題は良くできているが、複数の資料から情報を得たり、2つの条件に従って根拠を明確にして、自分の考えをまとめ、決められた字数で文章を書いたりする問題では、全国平均正答率も低いが本町の生徒にも課題が見られる。

【数学】

Aの調査では、「基本的な計算」や「方程式を解く」問題は全国平均正答率と同程度である。しかし、「小数を含む一元一次方程式を解く」問題は方程式の解法は理解しているが、小数の乗除の計算が確実にできず、正答率が低かった。図形領域では、「図形の性質を記号から読み取ること」や「証明の根拠を考えること」に課題が見られるが、「平面図形の基本的な性質」については理解している生徒が多い。また、「平行四辺形になるための条件を探す」問題は対角線や中点の意味を正しく把握し、全国平均正答率を上回っている。関数領域では、「時間と道のりの関係を表すグラフから読み取る」問題は全国平均正答率を上回っているが、他の問題では正答率が低い。事象・式・表・グラフを関連づけての学習法が課題である。

Bの調査では、おおむね全国平均正答率と同程度である。特に、「与えられた情報から必要な情報を選択し、数学を活用して説明する」問題は昨年同様、日常的な事象を的確に捉え正答率も高い。逆に、「構想を立て、説明し発展的に考える」問題は正答率が低く、無解答も多い。前提と結論を明確に表現すること、文字式を用いて説明することが課題である。

【理科】

「平均値を求める理由を説明する」問題では、全国平均正答率を大きく上回り、実験データを処理する方法を理解している生徒が多い。しかし、実験結果から得られたグラフを分析して解釈することには課題が見られた。「磁界の変化を説明する」問題では、解答率が全国平均より高く、正答率も上回っている。知識を利用して説明しようという意欲が育ってきていると思われる。「水溶液の溶質と水のそれぞれの質量を求める」問題、「風向を観察する」問題の正答率が低く、割合の概念や気象観測の技能に課題が見られる。また、2学年で学習した基本的な用語を答える問題では、無回答率が多かったことから、家庭学習などでの既習事項の復習の不足が窺える。

(2) 児童生徒に対する質問紙調査結果の分析内容について

【小学生の質問回答より】

- 学校の授業時間以外における1日当たりの学習時間について、「3時間以上」と回答した児童は、全国とほぼ同じ状況である。「2時間以上、3時間より少ない」と回答した児童は、全国を上回っているが、30分未満も多い。
- 学校の授業時間以外に、半数近くの児童が、毎日30分以上読書をしており、全国を上回っている。
- 9割近くの児童が、地域行事に参加している。さらに、地域や社会で起こっている出来事について関心の高まりがみられる。箱根教育の成果と思われる。
- 授業では、自分の考えを発表したり、学級の友達との間で話し合ったりする学習活動の充実が求められる。

【中学生の質問回答より】

- 学校の授業時間以外における1日当たりの学習時間について、昨年度の本町の状況よりも大幅に改善が見られ、全国に近づく状況である。
- 「1時間以上、2時間より少ない」時間、毎日読書をする生徒は、全国に比べて2倍以上いる。4割の生徒が、毎日30分以上読書をしている。
- 地域行事への参加が6割を超え、地域とのつながりに深まりが見られる。
- 7割以上の生徒が「総合的な学習の時間」の授業で学習したことが将来役に立つと考えている。さらに、9割以上の生徒が自ら課題を立てて、調べたことを発表する学習活動に積極的に取り組んでいる。